

## 【質疑応答】

質問者 1 : Necco 当事者研究会の参加者はどのような構成か。また、継続的に参加しなくなった人がいるようだがその原因はなにか。

講師 : 1 回あたりの参加者の半分ぐらいがリピーターであり、残りの半分は新規あるいは定期的な参加はしない人である。Alternative Space Necco では就労支援も行っているのですが、就職すると参加しなくなることがある。

質問者 2 : 発達障害の特性で得することはなにか。

講師 : 私の場合は絶対音感を兼ね備えていたり、ジグソーパズルが得意だったり、詳細を良く覚えているので探し物を見つける際に役立ったりするが、それは困難と表裏の関係なので、得をしているとは言い難い。

質問者 3 : 発達障害の診断基準はどのくらいの期間なのか。

コメ : 個人差はあるが、成人であれば 1 年以内、子どもであれば数年かかることがある。これは、成人は肉体的、精神的にも成長が終わっているため、子どもからの成育歴で判断が可能だが、子どもは成長段階であるため、判断をしきれない部分が残るためである。

質問者 4 : 発達障害者は音を苦手としているためスーパーなどの騒がしい空間が苦手と聞くが、他にはどのような空間が苦手なのか。

講師 : 確かに多くの発達障害者が聴覚に関する困難を抱えているが、大きな音が苦手な場合や、音の反響が苦手な場合など様々である。よって苦手な場所についても個人差が大きい。

質問者 5 : 公共施設や駅、電車内などの音サインはどのように感じているか。

講師 : 電車内でのアナウンスが大きすぎると感じる当事者は多い。個人的には新幹線ホームにある階段付近のピン・ポーンの音量が大きく、体を刺すような音質なのでつらい。さらに、スピーカーが真上にあると首を押さえつけられるような感じがするためつらい。

質問者 6 : 他の音を遮断するイヤーマフの使い勝手はどうか。

講師 : 私の場合、イヤーマフは使いやすい。ノイズキャンセリング機能のあるヘッドホ

ンは、逆に気持ちが悪くなってしまった。

質問者 6：音楽はどのように感じるか。

講師：私の場合、音楽を聴くとメロディの一つ一つが音名に変換される。音楽が流れている中でアナウンスがあると、二重の言葉を聞いているかのように感じてしまい、非常に聞きにくい。

質問者 7：駅の改札口にもピン・ポーンという音サインがあるが、先ほどと同様か。

講師：今まで気づいていなかった。最寄りの駅では聞いたことがない。もしすべての駅で設置されているのに気付いていないのだとしたら、おそらく改札口付近は他の情報が多様で、雑踏の中にあるので、その音だけが苦になるという状況ではないのだろう。

質問者 8：音サイン以外の駅の構造や情報はどうか。

講師：東日本大震災後による節電で駅構内の照明が暗くなっていたが、過ごしやすいつと感じている当事者は多かった。また、駅では広告看板の色使いが派手すぎると感じ、文字も書体によっては読めないこともある。

質問者 8：テロップなどの流れ文字はどうか。

講師：文字を一つ一つ読めるので、意外とみやすい。

質問者 9：「社会の問題」は社会に返すとは、非常に難しいと思うが、具体的にどのようなことなのか。

コメ：例えば、聴覚的な問題として、会議等で多数の声を分別できず聞き取れないということがあった場合、本人の努力不足とするのではなく、「一人ずつ話す」というルールにしたり、発表者の声を大きくしたりなど、「周囲の人々＝社会」が変化すれば解決する局面がある。また、それらを解決するようなインターフェイスの技術開発も考えられる。

「就労できない」「結婚できない」など、いろいろな困難をすべて個人のコミュニケーション障害のせいとする人がいたら、それらは現在の日本社会全体が抱える問題であることを、丁寧に伝えていく必要があるだろう。